

KOBEから発信していた！

『COOL BIZ(クールビズ)』でも 神戸流なら『KOBE BIZ(コウベビズ)』

昨年の流行語大賞にもノミネートされた『COOL BIZ(クールビズ)』。実は神戸から発信されたものだと知っていますか？



ファッショングループ協会が中心となり発足された「ひょうごエコファッション実行委員会」。メンバーは、神戸のアパレル8社（イズム、エフエルエス、ジャヴァ、シユ、大丸神戸店、マルイ神戸店、ワールド）、ケミカルシユーズ・播州織等の兵庫県内地場産業の代表、兵庫県、神戸市などで構成されている。

以前から兵庫県では、冷房温度の節電で省エネを率先するため、店内で背広やネクタイをつけない軽装で勤務するなどエコストyleに取り組んできた。そして震災10年を契機として関西広域連携協議会の「関西夏のエコストyleキャンペーン」に合わせた新たなファッショングループ展開。ノーネクタイでも見栄えのするデザインを起用するなど、夏場のオフィスでの着用を意識した、新しくおしゃれなエコストyleを作り出しました。

KOBE BIZ

播州織とは？



200余年前に京都・西陣織の技術を導入して始まった日本を代表する先染織物です。長い伝統に裏打ちされた技術により、素材にはハリと光沢があり、また綿本来のやわらかな風合いを感じることができます。播州織の生地は色あせが少なくハリのある生地感が特徴。またKOBE BIZの生地は種類も約50種類と豊富に揃っており多く楽しむことができる。



愛・地球博で兵庫県の取り組みを紹介する井戸敏三兵庫県知事

た。
国においても、昨年度から「COOL BIZ（クールビズ）」という名称で、冷房温度28℃設定と軽装勤務の取り組みを始めている。
この取り組みを普及させるために「国連世界環境の日」である平成17年6月5日に、愛・地球博会場内のEXPOドームで環境省が主催の「クールビズコレクション」が開催された。コレクションによる新しい夏のビジネススタイルのファッショニシヨーでは13人の財界人とその企業の若手社員がモデルとして出演。また、井戸敏三兵庫県知事が出演し兵庫県の「夏のエコスタイル」の取り組みを紹介、以後、このコンセプトは一気にひろがり、流行語大賞にノミネートされるまでになつた。
今年も夏がやってくる。「COOL BIZ（クールビズ）」ならぬ神戸バージョンの「KOBEBIZ（コウベビズ）」ではどんな神戸ならではのおしゃれな、そしてエコロジカルなアイテムが生まれるのか楽しみである。

パークレー
BARCLAY

上質トラディショナルなスタイルが大人気。手持ちの服にあわせやすい、活躍度大なフレーンなデザインながら、存在感あるレザード、トレンド感あふれる足もとを実現。

ブーツを脱いだら何をはく？
春いちばんに欲しい！オシャレ靴



肌なじみのいいスマーキー
カラーのオリジナルレザー
を使用。バックル付きベルトで目立ち度抜群。

¥16,800／22~24.5センチ。ダークピンクなど全5色



チーフデザイナー
縄手真弓さん

オシャレ大好きな神戸っ子なら、
まず足もとから春アイテムを取り入れてみてはいかがでしょうか。

「今春夏はエスニックテイストを取り入れたデザインが特徴です。素材は、馴染んだ風合い感を出したヴィンテージレザーから焦がし革やオールメッシュ、パインソングまで、素材そのものに表情のあるものを多用しています。神戸らしく上品な軽快感が春らしい装いにもピッタリですよ」とチーフデザイナー縄手真弓さん。

くつのまち・長田が世界に誇る、シユーズメーカーのカワノ。看板ブランド「パークレー」を筆頭に、履きやすさ、安心感が加わったハイクオリティーな靴が、おしゃれに敏感な女性の間で注目を集める。

くつのまち・長田が世界に誇る、シユーズメーカーのカワノ。

看板ブランド「パークレー」を

ジャボニカ japonica

西陣織や博多織など、日本の伝統素材を使った粋なデザイン。イタリア国際靴見本市「MICAM(ミカム)」にも出展、世界のバイヤー、メディアから注目を集める。



綿和柄プリントを鼻緒風にあしらったべたんこサンダル￥15,750／23～24センチ



純和風なかがりチリメンがエナメルと組み合わされ、ポップな印象に￥17,850／23～26.5センチ



蝶をかたどった小さめスタッズがキュートなサンダル。細めのストラップで華奢な印象も。￥16,800／22～24.5センチ。黒、茶、ベージュなど全7色



ワンランク上のエスニックを目指すなら、カラーストーンをあしらったこんなミュールがおすすめ。￥16,275／22～24.5センチ。白、カーキなど全5色

BARCLAY

フリドール P R I X D O R

人気のウエッジソールをはじめ、ストロー素材やフラワープリントなど、異素材を組み合わせて遊び心あふれる一足に。春の着こなしの鮮度アップにぜひ投入したい旬靴ぞろい!



カラフルなエスニック柄のインソールがユニークな表情￥12,600／S・M・Lサイズ



天然石が足先でゆれる、シックなウエッジソールのサンダル￥12,075／S・M・Lサイズ

“familiar Style”は 神戸・阪神間の「ファイフスタイル

2006年秋冬に先駆けてファミリア新商品の展示会が開かれた。神戸っ子なら誰でも知っているファミちゃん、リアちゃん、スヌーピーもいる。ベビーからボーアズ、ガールズ、ママのためのファッショニも。「いつもどこかに機能性を意識して

いる」というデザイナーの木下直美さんは、子ども服のデザインを手がけた後、結婚、出産を経て復帰。子ども服とマッチする上品なファミリアらしさが魅力。

新しい感覚で空間造りを担当しているのが岡崎忠彦さん（商



ファミリア本社展示会場にて。岡崎晴彦代表取締役社長（左）と岡崎忠彦商品本部副本部長兼CIオフィス統括マネージャー（右）

「ファミリアの原点は4人の女性が母としての愛情を持つて始めたところにあります。深い思いを持つ人たちに支えられ、ここまできました。56年を経て、サードジェネレーションに受け継がれようとしています。一人の力では何もできません。チ

ムワークを組み、ファーストジ

品本部副本部長兼CIオフィス統括マネージャー）。ファミリア名誉会長の故・坂野惇子さんの孫にあたる。子どものころ、週末になると祖父母の家に泊まりに行き、惇子さんに次の日に着る服を「趣味いい？ダメ？」とプレゼントーションし、祖父の通夫さんには“子分”と呼ばれ、連れ歩かれるうちに知らず知らず店づくりを教わったという忠彦さん。新展開する「Afamiliar Place」は子どもの心と、かつて子どもだった私たち大人の心の中にあらフアミリアな場所。「そこには木があります。木は枯れて葉を落とします。種が散り、そこの芽が出て、また木が育ちます」。祖母が残した、ものづくりの原点に戻ろうという思いがある。



2006年秋・冬のテーマ「A familiar Place」



familiar Style



デザイナーの木下直美さん



familiar

■神戸市中央区相生町1-1-21
☎078-360-1234

エネレーシヨンの思いを伝えて
「いつほしいですね」と社長の
岡崎晴彦さんは話す。商品は2
シーズン各2冊の「familiar
Style」に掲載し、
ファミリアファンをはじめ各方面
に約9万5千部が届けられる。
「単に商品紹介のカタログとい
うのではなく、店舗では伝え切れ
ないスタイルを紹介しています。
これは神戸・阪神間が持つ独特
なライフスタイルに通じるもの
だと思います」と岡崎社長。

スタイルを決めるハードを充
実させてきた。今、カルチャー
面で中身をさらに充実させるソ
フトを模索している。

神戸ファッション専門学校と
神戸文化短期大学、神戸ファッ
ション造形大学による「2006
福富学園 ファッションフェア」
が、1月28日、新神戸オリエ
ンタル劇場にて開催された。デ
ザインコンテストとショーの2
部構成からなるフェアは、学生
達の創造活動の集大成。次代を
創る若き才能に期待する企業の
協賛も多く、各方面から高い注
目を集めている。

「学んだ成果を作品で示す」
を身上に学内外のコンテストへ
積極的に参加し、実力を示す機
会に恵まれていると評判。なか
でも同フェアのパリクチュール
組合学校賞に選ばれた学生は奨
学金を受け、クチュール組合学
校に留学できるので、学生達の
取り組みも一際力が入る。手の

2006 ファッションフェア 神戸ファッション専門学校

神戸新聞社賞



大賞 福富芳美賞

田崎真珠賞



込んだ秀作が発表されたたびに
会場の観客を魅了していた。

「学んだ成果を作品で示す」
を身上に学内外のコンテストへ
積極的に参加し、実力を示す機
会に恵まれていると評判。なか
でも同フェアのパリクチュール
組合学校賞に選ばれた学生は奨
学金を受け、クチュール組合学
校に留学できるので、学生達の
取り組みも一際力が入る。手の

「神戸ファッションコンテスト2005」 シューズ部門 特選

海外留学を目指す若手クリエーターを対象とし、今
年で第32回を迎える「神戸ファッションコンテスト」
のシューズ部門にてシューズコースの岡竹景子さん
が特選に選ばれた。今後、イタリアのマランゴーニ学
院へ1年間の留学のチャンスが与えられる。



野村江利さん

アバレルテクニカルコース

シルエットや形にこだわってデザインしました。テーマは「結び目」
で人と人とのつながりを表現しています。背中に垂らした紐で結
び目を作り、ゆらゆら揺れるデザインが特徴です。

充実した学習環境

創立69年を迎える神戸ファッション専門学校は、1937年の開校以来、デザイナー、パタンナー、ファッショニアドバイザーなど即戦力として通用する人材を育成してきた。

カリキュラムは、目標とする職種別に8コースが用意されている。授業は、デザインやア

パレル企画、パターーン、立体裁断、ファッショングーディネーション、ショップ企画、ディスプレイ、縫製や服飾工芸、商品知識をはじめ多岐に渡る。ブランド企画と学外での発表、デイスプレー作品と専門家の審査によるコンテスト、地場産業である靴業界の支援を受けたシユーズコースの作品展など学生の実力を試す場も多い。ファッショングの街神戸にふさわしい特色を持つ実力校である。



第4回ディスプレイコンテストの大賞作品「妖艶」



フランス・ベルトラン先生の
デザイン画の実習授業

パリクチュール組合学校賞



近藤絵理さん
アパレルテクニカルコース
ジャケットの表面に樹脂を流し、固めて、服の自由をあえて無くしました。過度な装飾を無くしたのは、現代に流行する過度な装飾、戦争やテロなどをもたらすものに歯止めをかけるというテーマから。パリでは服づくりを取り巻くたくさんのこと学びたいです。



立体裁断をはじめ、ファッショングの本場・パリの最先端技術を身につけられる

憧れのパリ・オートクチュールの世界 ～パリクチュール組合学校との提携～

KFIはシャネルなどのメゾンが会員として名を連ねる、オートクチュール組合運営のパリクチュール組合学校と提携。パリから招聘した講師の技術指導が受けられる。



KOBE FASHION INSTITUTE 神戸ファッション専門学校

- ファッショクリエイター学科(3コース・3年)
アパレルデザインコース/アパレルテクニカルコース/オートクチュールコース
- ファッショビジネス学科(5コース・2年)
ファッショニアドバイザーコース
スタイル&コーディネーターコース
ファッショングッズコース
シューズコース
ファッショングデザインコース



寮完備(女子)

〈学校説明会〉

5月13日(土) 27日(土)
6月10日(土) 24日(土) 以上14:30~16:00
7月8日(土) 22日(土)
13:00~15:00

〈夏休み体験入学〉

7月下旬~8月
詳細はお問い合わせ下さい
TEL.078-241-8611

〈KFI MOVE開催〉

日時 7月28日(金) 29日(土)
会場 兵庫県立美術館
内容 ファッショショー・作品展示



神戸市中央区国香通6-7
TEL.078-241-8611 FAX.078-241-8614
<http://www.kfi.ac.jp/>



▶シユウエケ邸の前で



新井満 〈作家〉 KOBEを歩く 〈後編〉

撮影・古川貴浩

風通しが良くて、
濁みのない街・神戸

電通マンとしての第一歩を踏み出したころの新井満さんが10年を過ごした街・神戸。「06年は何故か自分でも分からぬが、どうしても来たくなった」と言う。震災後、初めて歩く神戸の街並みは変わつただろうか。

再度山の外国人墓地をあとにして異人館通りへ向かう。ずっと気にかけていた震災で壊滅的な被害を受けた異人館街復興のようすを自分の目で確かめたいというのも、満さんが今回神戸を訪ねた目的のひとつ。シユウエケ邸の前で車を降り、通りをぶらっと歩く。六甲おろしが吹き抜ける下界もやはり寒い。

「神戸はこんなに風通しのいい街だったんだなあ。交通の要所になる港街の中でも神戸はとりわけ風通しがいいね。人間が溜まらず、関係もサッパリしている。何も濁まないから物も腐らない街だね」



変わらない街の姿を確かめるよう、ファインダーをのぞく。「電線をスッキリさせて再建できなかつたのは残念だね」と、ちよつと苦笑も呈す。

「ぼくのふるさとには災難がふりかかるみたいだなあ」。生まれ故郷の新潟も地震で大きな被害を受けた。

受け継がれていくのち。
それが再生

昼食は「グリル 十字屋」を目指す。満さんがサラリーマン生活を送っていたのがこの界隈。あいにく満席。相変わらずの繁盛ぶりだが、何だか雰囲気が違う。顔を出した三代目マダムといふより、かわいいお嬢さんに、偶然にもほんの3週間ほど前にリニューアルオープンしたばかりだと聞く。残念なことに、先代と奥さまは相次いで亡くなられたとか。満さんが神戸で過ごした当時は健在だった、とてもハイカラな初代マダムについて、「祖母は不思議と英語もしやべつていました。お客様に船乗りさんが多かつたからでしょうか」

と思い出を話してくれた。

今はお嬢さんがご主人との二人三脚で切り盛りしている。リニューアルした店内には、昭和8年の創業当時からの歴史を刻む家具やストーブ、絵画、小物などが上手に配置されていて、違和感なく同化している。

思い出をたどるように考えていた満さんは、「25年ぶりだ」と感慨ぶかげ。

「いのち、つまりDNAはバトンタッチしていくもの。先代から今のマダムへ、そしてその子どもたちへと。死んで、そして再生する。いのちは永遠に不滅だということ。神戸の文化的なDNAも同じことだろうね」。

そして、ちつとも変わらない「ハイシライス」の味に舌鼓をうつ。「ハイカラ神戸」の洋食DNAを受け継ぎ守り続けている若い三代目夫婦に拍手。

変化して何もなくなり、そこから何かが始まる

旧居留地を歩く。神戸開港以来のエキゾチックな雰囲気を残しながら、ブランドショップ、ブティック、カフェが並ぶ新し





い街に生まれ変わった。「旧居留地十五番館」は震災で倒壊したが、建材をそのまま使い、さらに免震構造で復元され、今や人気のカフェ。

最後に、再生したメリケン波止場へ向かう。震災前の活気は戻らないものの、新しい港として稼動している。

「街の形は変わった。まさに般若心経の一行『色即是空』だね。すべての存在は空である。空とは変化すること。変化した結果、無くなってしまうこと。

ここからが新井流自由訳の重要なところ。『空即是色』……つまり同じ変化でも滅びるのでなく、始まるということ。そして新しい何かが生まれる。般若心経が千一百年もの間、死んだ人のために唱えるお経だと思われてきたのは大きな誤解。実はお釈迦さまが生きている人たちに語りかけた『How to Live』いかに生きるか。これが、母が産婆だった新井流の解釈」と満さん。

数え切れないほどの新しいのちの誕生に立ち合ってきたお母さまのDNAがなせる業でしようか。



中央突堤からモザイクを見る

震災ですべてを失った神戸の10年の歩みは「空即是色」だったのか…。そこにDNAはしつかり受け継がれているだろうか。

人生は思い出づくりの旅

この街で生まれ

この街で育ち

この街で出会いましたあなたと
この街で…：

青春時代の一ページを過ごし、
結婚し、三人の子どもが生まれ
た街・神戸。

「いろいろな人に出会い文化
的刺激を受けたことで、電通神
戸支局の一サラリーマンだった
ぼくがシンガー・ソングライタ
ーになり、映像を創るようにな
り、小説を書くようになった」。
たくさん思い出が詰まつて、
いる神戸は、まさに第二のふる
さとだと改めて感じたという満
さん。

「人生は思い出づくりの旅。
しあわせは、死ぬ時にどれだけ
の思い出を持っているかが問題
で、預金通帳にどれだけの額を
残せたかじやない」。



▲ポートタワーを背に

新たな思い出を抱えて満さんは東京へと帰つていった。私たちの胸に思い出を残して…。

(おわり)

文・乾世津子



花と鳥の楽園「神戸花鳥園」 3月15日グランドオープン！



神戸花鳥園 加茂元照社長

神戸空港の開港に伴い、新しいスポットが続々と誕生するポートアイランド。3月15日、その最南端に花と鳥の楽園「神戸花鳥園」が誕生した。園内の床面積は、甲子園球場のグラウンドとほぼ同じ広さがある。

エントランスとなる長屋門内には、約28種類のフクロウを公開。フクロウの仲間は、世界に約140種類が生息するが、実物の生きたフクロウはほとんど見る機会がない。当初27種類約70羽のフクロウを公開。映画「ハリー・ポッター」でも人気者になつたシロフクロウも今後登場する予定。

館内で目を引くのは、球根ベゴニアを中心とした南花ゾーン。鉢に植えてあるスタンダードタイプのベゴニアや、頭上に吊つてある、ハンギングタイプの球根ベゴニアなどが館内いっぱいに咲き乱れる。

園内の中心部には、大池が設けられ、より自然に近い鳥たちの姿を垣間見ることができる。

神戸花鳥園のご案内

●入園料(税込み)

大人(中学生以上)／1,500円(800円)

小人(小学生)／700円(400円)

シルバー(65歳以上)／1,000円(500円)

幼児無料

障害者 大人／1,000円(500円)

障害者小人(小学生)／500円(300円)

団体15名以上10%引

※()は4月20日までのグランドオープン期間割引料金

●開園時間

冬期暫定 9:30～17:30

●駐車場

普通自動 400台 1時間半まで無料

大型バス 1回の出入り毎に 2,000円

回送バスの駐車も

●交通

ポートライナー空港線に乗車し14分。

「ポートアイランド南」駅下車

●ご連絡先

〒650-0047

神戸市中央区港島南町7-1-9

TEL: 078-302-8899 FAX: 078-302-8222

<http://www.kamoltd.co.jp/kobe/>



※写真はイメージのものも含まれています

園内には、花の販売、鳥にまつわるグッズなどが豊富にそろうだけでなく、花に囲まれたカフェテラスで休息のひとときを楽しむことも。ご家族連れやカップルで、花と鳥の樂園を満喫していただきたい。

「花と鳥とのふれあい」をテーマとしていることから、インコ類、オオハシ、クジャクなどたくさんの中たちが放し飼いにされている。獲物を捕獲する以外はほとんど活動を行わないフクロウが、大きな翼を広げて目の前を通過する飛行調教ショーは圧巻。またペンギンや水鳥の餌付けも行われ、生き物たちと直にふれ合うことも。